

窪尼御前御返事

弘安四年一二月二七日 六〇歳

品品たのものをくり給びて候。

善根と申すは大なるによらず、又ちいさきにもよらず、国により、人により、時により、やうやうにかわりて候。譬へばくそをほしてつきくだき、ふるいて、せんだんの木につくり、又、女人・天女・仏につくりまいらせて候へども、火をつけてやき候へばべち別の香なし。くそくさし。そのやうに、ものをころし、ぬすみをして、そのはつ初穂ををとりて、功德善根をして候へども、かへりて悪となる。須達長者すだつちようじゃと申せし人は月氏第一の長者、ぎをん精舎をつくりて、仏を入れまいらせたりしかども、彼の寺焼けてあとなし。この長者もとい魚ををころしてあきなへて長者となりしゆへに、この寺つみに失うせにき。今の人々の善根も又かくのごとし。大なるやうなれども、あるいはいくさをして所領を給び、或はゆへなく民をわづらはして、たから財をまうけて善根をなす。此等は大なる仏事とみゆれども、仏にもならざる上、其の人々跡あともなくなる事なり。又、人をもわづらはさず、我が心もなをしく、我とはげみて善根をして候も、仏にならぬ事もあり。いはく、よきたねを悪あしき田にうえぬれば、たねだにもなき上、かへりて損となる。まことの心なれども、供養せらるゝ人だにもあしければ功德とならず、かへりて悪道におつる事候。此は日蓮を御くやうは候はず、法華経の御くやうなれば、釈迦仏・多宝仏・十方の諸仏に此の功德はまかせまいらせ候。

抑そもそも今年の事は申しふりて候上、当時古はとしのさむき事、生まれて已来このかたいまだおぼへ候はず。ゆきなんどのふりつもりて候事おびたゞし。心ざしある人もとぶらひがたし。御をとづれをぼろげの御心ざしにあらざるか。恐々謹言。

十二月二十七日

日 蓮 花 押

くぼの尼御前御返事